

## 【サンクト講演レジュメ】

# 日本におけるサーカスの歴史と現在

2010.09.20

この度はフェスティバルにご招待いただきありがとうございます。私は日本で小さなサーカスのプロモーターをしている会社で働いている大島幹雄と申します。サーカスのプロモーターとしては30年以上働いています。

今回私のような小さな仕事しかしていない人間がこのような素晴らしいフェスティバルに招待されたのは、おそらく日本の現在のサーカス状況と、どんな歴史をもっているのかを報告するよとということだと理解しました。

まずは簡単に日本のサーカスについて、さらには観客について報告します。

現在、日本では木下、キグレ<sup>1</sup>、ポップという三団体が活動をしています。いずれもテントで各地を移動しながらの公演です。アーティストのほとんどは中国、ロシア、キューバなど海外から来た人たちです。

サーカスは盛んだといえます。まずは50年来ロシアのサーカス、ボリショイサーカスが毎夏公演しています。これはすでに夏の風物詩と言ってもいいぐらい日本にすっかり定着しています。夏休みシーズンということもあり家族連れの観客がほとんどです。

若い観客層をサーカスに惹き付けたのは、シルク ドゥ ソレイユのツアー公演です。1992年から毎年のようにシルク ドゥ ソレイユが主に大都市を中心に公演、これを主催したフジテレビの宣伝力も手伝い、若い人たち、さらには大人たちもサーカスに関心を持つようになりました。

この他にテーマパークでも定期的に海外のサーカス公演が行われています。特に愛知県にあるリトルワールドでは、20年近く毎春秋に世界の民族的なサーカスを紹介しています。

つまりいまの日本のサーカス界は海外から来たサーカス団、あるいはアーティストが支えているといってもいいでしょう。

では、日本のサーカスは昔から海外から来たアーティストによって支えられてきたかというところではないのです。いまからおよそ200年前の日本では、マジック、ジャグリング、アクロバットなどを演じるアーティスト、グループがたくさんあり、東京、大阪、京都といった大都市だけでなく、小さな地方都市でも人気を博していました。ご存じの通り日本はおよそ250年ちかく鎖国（海外との交流をほとんど絶っていた）をしていました。いまからおよそ160年前に開国（海外との交流を許可する）したとき、海外の商人たち

---

<sup>1</sup> この講演のあと、2010年10月19日にキグレサーカスが事業停止したというニュースが報じられた。

がまず目をつけたのは、こうした卓越した技術と演出力をもった日本のアクロバットやマジックのアーティスト、そしてグループだったのです。

早竹虎吉 (HAYATAKE TORAKICHI) という綱渡りの名人がいましたが、彼はおよそ1時間に渡って、綱渡りをメインとしたショーをつくっていました。こうしたアーティストたちはみんな続々と海外に買われて、海を渡っていきます。日本で最初にパスポートを取得したのは、こうしたサーカスアーティストだったということが彼らの人気ぶりを証明しています。

第一次世界大戦が始まるまで、世界中で (アメリカ、オーストラリア、南米も含む) 日本のサーカス・アーティストは活躍していたのです。

これが日本のサーカスのひとつの歴史でもあります。

今回のこのフェスティバルの目的は、過去をふり返ることではなく、サーカスの未来を考えるためだと思います。演出というのが大事になってきているのは間違いありません。そのひとつがコラボレーション、異ジャンルとのコラボレーションがひとつの可能性をもっているといえるかもしれません。

カナダのモントリオールは、シルク ドゥ ソレイユの拠点ですが、そこはまたジャズフェスティバルが長年開かれ有名になっています。そこでジャズとサーカスのコラボレーションがありました。同じように日本でも「シャングリラ」というポップ音楽とロシアのサーカスのコラボレーションが行われ、大変話題になりました。ユーミンという日本では超一流の歌手とロシアのサーカスやシンクロナイズドスイミング、さらにはアイスショーとのコラボレーションは、3回行われました。

今年は日本で、「ルナ・レガーロ」という、一流シェフのつくる料理を出す間にサーカスを見せるという、食とサーカスのコラボレーションも話題になっています。

「シャングリラ」も「ルナ・レガーロ」も、制作費に膨大な資金が投入されています。一番最初に申し上げたように、私の会社はとても小さな会社で、主にテーマパークで、小さな規模のサーカスをプロデュースしています。莫大な資金などはありません。でもお客さんを飽きさせない新しい仕掛け、演出を要求されています。

最後に私のような資本のない会社が、テーマパークで新たな演出を要求されるなかでつくったショー『ロシアン・マジック桃太郎伝説』の一部を見てもらいます。これは日本の昔話とロシアのアーティストによるコラボレーションといえます。日本人だったら誰でも知っているお伽話をベースに、ロシアのマジシャンが考えたショーです。子供向き、しかもこれで入場料をとって見せるというものではありませんでしたが、サーカスの新たな可能性はあるといえないでしょうか。